

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成25年2月14日(2013.2.14)

【公開番号】特開2012-155417(P2012-155417A)

【公開日】平成24年8月16日(2012.8.16)

【年通号数】公開・登録公報2012-032

【出願番号】特願2011-12341(P2011-12341)

【国際特許分類】

G 06 Q 10/06 (2012.01)

【F I】

G 06 F 17/60 174

【手続補正書】

【提出日】平成24年12月25日(2012.12.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の時期の各々での行動実績に対して、評価対象となる人物が入力した自己評価の評価種別を教師データとして、前記複数の時期の各々における前記人物の行動実績を学習し、学習分類器を生成する生成手段と、  
評価対象の時期における前記人物の行動実績を、前記生成手段により生成された学習分類器に基づいて評価する評価手段と、  
を有する情報処理装置

【請求項2】

前記学習分類器は、前記人物の行動を評価する際の基準となる評価基準情報を示す、  
請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】

前記評価種別を含む記録を、前記人物の属性を示す属性情報に関連付けて記憶する記憶する記憶手段と、

前記記憶手段に、前記評価基準情報を記憶されていないときに、前記記憶手段に記憶されている前記評価情報を含む記録の数が予め定められた基準数以上か否かを判断する判断手段と、

を有し、

前記評価手段は、

前記判断手段により判断された数が、前記基準数以上の場合、前記各記録に含まれる評価種別を教師データとして、前記各記録に含まれる前記人物の行動実績を評価する、

請求項1又は2に記載の情報処理装置。

【請求項4】

前記生成手段により生成された学習分類器が、複数の時期の各々での前記人物以外の他の人物の行動実績に対して

前記他の人物自身が入力した自己評価の評価種別を教師データとする当該複数の時期の各々での前記他の人物の行動

実績の学習結果、に基づく条件を満足する場合に、当該学習分類器を修正する修正手段をさらに含み、

前記評価手段は、

前記学習分類器が修正された場合、修正された前記学習分類器に基づいて、評価対象の時期での前記人物の行動実績を評価すること、  
を特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

**【請求項5】**

前記生成手段は、  
複数の状態の各々について、前記人物が当該状態にあった複数の時期の各々での前記人物の行動実績に対して入力  
された自己評価の評価種別を教師データとして、当該複数の時期の各々での前記人物の行動実績を学習して学習分類  
器を生成し、

前記評価手段は、  
評価対象の時期での前記人物の行動実績を、前記複数の状態のうちの当該評価対象の時  
期での前記人物の状態、に  
ついて生成された学習分類器に基づいて評価すること、  
を特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

**【請求項6】**

前記人物とは異なる他の人物により予め定められた操作が行われた場合に、前記生成手  
段により生成された前記学  
習分類器を修正する修正手段をさらに含み、

前記評価手段は、  
前記学習分類器が修正された場合、修正された前記学習分類器に基づいて、評価対象の時  
期での前記人物の行動実  
績を評価し、

前記修正手段は、  
前記他の人物の属性が予め定められた条件を満足する場合に、前記生成手段により生成  
された前記学習分類器を修  
正すること、  
を特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

**【請求項7】**

複数の時期の各々での人物の行動実績に対して前記人物自身が入力した自己評価の評価  
種別を教師データとして、  
当該複数の時期の各々での前記人物の行動実績を学習し、学習分類器を生成する生成手段  
、  
評価対象の時期での前記人物の行動実績を、前記生成手段により生成された学習分類器  
に基づいて評価する評価手  
段、  
としてコンピュータを機能させるプログラム。